

いかと心配だ。」と話されている方がいました。

幸い大磯では火災が発生しなかったため、大惨事とはなりませんでしたが、大磯駅を出発し、平塚駅へ向かっていた汽車が、高麗山付近で転覆し、8人の方が亡くなりました。

震災を体験した方の証言から

- ・津波はドーンときて大磯の堤防にぶつかった。西からきた津波だったので、江の島の方へ行った。
- ・火事はなかった、その大地震じゃ。みんな倒れちゃった。
- ・駅前の商店の下にね、電信柱があつてよ、そこへつかまつてた覚えがあんだよ。
- ・こーんな揺すぶれてよ、すごいよ、大地震の時だからよ。
- ・昔の家は、壁が土壁だんべ。だから、土壁がみんな落っこっちゃつて土煙で火事みてえだった。
- ・汽車がね、あんでも、あの時分で10両ぐらい上りへとあつたのが、機関車とそこの次の箱と両方がある中、こー突つとつてね機関車が半分田ん中へ突つとつて見えなかつたよ。

風水害

未曾有の高潮が

沿岸部を襲う

人命に影響を与える自然災害は、地震だけではありません。台風などによる暴風雨も、時には大きな被害をもたらします。

大磯は、関東大震災が起こる6年前に、台風による高潮の被害を受けました。大正6年(1917)9月30日午後から翌10月1日にかけて神奈川・東京の沿岸部を通過した台風は、大潮の満潮時と重なり、沿岸部に異常な高潮を引き起こしました。大磯沿岸を押し寄せた波は高さ約15mと伝えられ、全壊家屋38戸、床上浸水55戸、床下浸水98戸、死者2人、負傷者27人、護岸堤防が約360mにわたつて決壊するという被害が出ました。このときは、北下町、南下町を中心に、被害を受けました。被災者には町から救助金が支給されたほか、別荘所有者から多くの義捐金が贈られ、助けとなりました。

高潮を体験した方の証言から

・大正6年の台風はすごかつた。南下町はほとんど水が入つてね。豆腐屋の前、東海道まで水が来た。嶋立の井戸(嶋立庵にある井戸)やガンガンの

井戸(裡道にある井戸)のところでまで水があがつてしまった。

富士山の宝永噴火

火山灰が河川に堆積、洪水を引き起こす

元禄地震から4年後、宝永4年(1707)11月23日、富士山が噴火しました。噴火は半月間続き、大量の火山灰が噴出され、偏西風によって、現在の静岡県、神奈川県、東京都などに降り積



▲町内の発掘調査で発見された土層。丸い枠で囲まれた黒色部分が富士山宝永噴火の際に降り積もった火山灰。

もりました。当時の記録によると、噴火が起こった当日の昼過ぎには、二宮から大磯にかけて大砂利、中砂利ほどの石が約6〜10cm、大磯から戸塚にかけて小砂利ほどの石が約9〜12cm積りました。これらは、噴火直後に噴出した灰白色の軽石だと推測されます。また、噴火後の火山灰の堆積量は、生沢、寺坂において約30cmであったことがわかっています。

降り積もった火山灰は、田畑の耕作に大きな影響を与えました。

た。町内でも、降灰によって耕作できなくなった水田がありました。

また、火山灰は河川に堆積し、洪水を引き起こしました。大磯の東を流れる金目(花水)川も、噴火後、度々洪水を起こし、高麗地域は江戸時代を通して、排水と洪水に悩まされました。

過去の震災を振り返って

過去と現在では、インフラや建物の構造が異なるため、今後同様の被害が発生するとは単純に言えません。過去の被害状況を知らずして、いつ起こるか分からない災害に備えることが大切です。

町で配布した防災ガイドマップを再確認し、家庭や地域の防災力を日頃から高めましょう。

郷土資料館春季企画展
「大磯の災害
―かつてこの地で起きたこと―」

郷土資料館では3月9日(土)から大磯の災害に関する展示を行います。特集記事について、さらに詳しい内容を展示しています。ぜひ、ご来館ください。詳しくは「図書館・郷土資料館だより」13ページをご覧ください。

◎問い合わせ 郷土資料館
☎(61)4700